

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



大会を制した星子啓太選手（左）と高橋萌子選手

第73回全日本剣道選手権大会 第64回全日本女子剣道選手権大会



3回戦まで男女各2試合場で競技が行われた



試合開始前に日本剣道形の公開演武が行われた
打太刀は船津晋治範士（右）、仕太刀は栗田和士郎範士

第73回全日本剣道選手権大会

星子啓太（東京）

4年ぶり2回目の日本一



決勝 星子（右）が小手を決める



星子啓太（東京）

- 選手権大会6回目出場（第69回大会優勝3位2回）
- 世界大会団体優勝2回・個人優勝1回
- 全国警察大会団体優勝2回・個人優勝3回

第73回全日本剣道選手権大会・第64回全日本女子剣道選手権大会が11月3日、日本武道館で開催された。
男子は星子啓太（東京）、女子は高橋萌子（神奈川）が優勝を果たした。
※詳細は、今月のニュース（118ページ）をご覧ください。

注目ニュース

第64回全日本女子剣道選手権大会

高橋萌子（神奈川県） 7年ぶり3回目の優勝



決勝Ⅱ高橋（右）が果敢に攻め込む

- 高橋萌子（神奈川県）
- 選手権大会9回目出場（第56・57回大会優勝）
 - 世界大会団体優勝4回
 - 全国警察大会個人優勝



第73回全日本剣道選手権大会・ 第64回全日本女子剣道選手権大会



決勝＝星子（右）対國友

第73回全日本剣道選手権大会・第64回全日本女子剣道選手権大会（主催はともに全日本剣道連盟）が11月3日に日本武道館で開催された。剣道男女日本一の座をかけ、前年度優勝者と全国の予選を勝ち抜いた選手を合わせた計128名（男女各64名）の選手が一堂に会し、激闘を繰り広げた。

男子では、竹ノ内佑也（東京）が2連覇を狙うが、3回戦で國友錬太郎（福岡）に苦戦を強いられ敗退した。決勝は星子啓太（東京）と國友が対戦。星子が小手と面を決め、4年ぶり2回目の優勝を果たした。

女子では、前年度優勝の近藤美洸（東京）が初戦で敗退。決勝は高橋萌子（神奈川）と大嶋友莉亜（大阪）が対戦し、高橋が面を決めて7年ぶり3回目の優勝を飾った。

昨年から、全日本剣道選手権大会と全日本女子剣道選手権大会が日本武道館で同時開催されている。男女同時開催に伴って選手の応援に多くの人が駆けつけ、3階

男子

星子啓太（東京）が 2度目の栄冠



席まで観客で埋め尽くされた。会場には終始大きな歓声が響き、熱戦を一層盛り上げた。

○試合ルール

試合時間は5分、3本勝負で、時間内に勝敗が決しない場合は延長戦（3分区切り）を行い、先に一本を取った選手が勝ちとなる。

決勝

星子 コメー 國友

決勝は、本大会6回目の出場で第69回大会優勝の星子と本大会9回目の出場で第67回大会優勝の國友との顔合わせ。

序盤は、両者慎重な試合展開が続いたが、中盤戦、星子は一瞬の隙をみて小手で一本を決めて先取した。後がない國友は、打突の機会を窺い距離をつめるが、星子は下がりながらも主導権を渡さず、引き面で2本目を奪って勝負あり。4年ぶり2回目の優勝を果たした。

準決勝①



國友

準決勝①＝國友（右）の素早い小手

コー 村上

試合開始直後、村上哲彦（愛媛）が最初に攻め込む。中盤戦、村上が面を仕掛けたところを國友が素早い小手を決めて先取した。村上は反撃を試みるが、國友が上手く防ぐ。國友が一本を守り切り、決勝へと進出した。

準決勝②



星子

準決勝②＝星子（左）が小手を決める

メモリー 林田

序盤戦は慎重な攻防が繰り返された。鏝（つば）迫り合いから星子が引き面を打って一本を先取。途中で林田匡平（長崎）が面を決めて追いつくが、試合終了間際に星子が出ばな小手を決めて勝負あり。星子が4大会ぶりに決勝の舞台上上がった。

●優勝者インタビュー 星子啓太選手（東京／警視庁）



ら挑戦する気持ちを大切にしてきましたので、最後までその気持ちを貫くことを意識しました。

（初優勝から）この4年間、嬉しいことばかりではなかったです。思うような結果がでず、苦しい時もありました。この4年間があつたから、こうして優勝できたのかなと思えます。今までの経験が楽しかった経験に変わりました。応援をしてくださった方々がいることを忘れずに、一試合一試合臨むことができたことが勝因かなと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。結果で恩返しをできて嬉しいです。

◇ （國友選手は）高校生の時から全日本（國友選手は）高校生の時から全日本の合宿で一緒に過ごさせていただいて、剣道だけでなく人間的にも尊敬している先輩です。今日は1回戦から挑戦する気持ちを大切に生きてきましたので、最後までその気持ちを貫くことを意識しました。

◇ （決勝の）最初の小手は狙ってはいなかったのですが、前に行われた全国警察剣道大会で先に一本を取って取り返される展開があつたので、同じ失敗を繰り返さないように自分を戒めていました。準決勝で攻められて一本を取られたので、自分が攻めにいかないと思つていました。ぶつかつていく気持ちでした。

◇ （モチベーションについて）下がることはなく、強くなりたいという気持ちがあるので、優勝しても課題をいけるように稽古をしています。

◇ これから険しい道が続くと思いますが、負けないように精いっぱい努力して、またこの舞台上に帰ってきて剣道ができる幸せを感じられるように頑張っていきたいと思えます。

●入賞選手コメント

準優勝Ⅱ 國友 錬太郎選手

(福岡／福岡県警)

「星子選手は日本を代表する選手なので、胸を借りる気持ちでいきました。(距離をつめたが) 下がりながらも引き出され、なかなか思うような展開にできなかったです。

試合に入るまでは状態が良くなかったですが、試合を重ねることに体のキレも増してきて良い形で決勝に臨むことができました。(前回大会優勝の) 竹ノ内選手との試合は挑戦者の気持ちで臨みました。良い緊張感の中で、試合をすることができました。

日本武道館で試合をすることはなかなかできない経験ですし、素晴らしいことだと思います」



準優勝＝國友選手

3位Ⅱ 村上 哲彦選手

(愛媛／愛媛県警)

「試合を重ねることに楽しくなってきました。2回戦からは気も充実してきたのかなと思います。今回改めて気迫が大切ということを実感しました」



3位＝村上選手

3位Ⅰ 林田 匡平選手

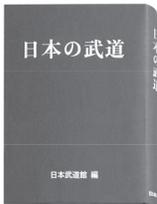
(長崎／県立島原高校教員)

「何が何でも優勝するつもりで臨んだ大会ですので悔しさがいっぱいです。技の狙いが単調になってしまいました」



3位＝林田選手

◎日本武道館の単行本



日本の武道

日本武道館 編
(B5判・上製・箱入・526頁)

日本の武道の全てを網羅した、武道関係者必携の書。武道小百科事典としても役立つ充実した資料編を巻末に収録。



高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著
(四六判・上製・564頁)

教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授 佐藤錬太郎 著
(四六判・上製・386頁)

禅の思想と剣術がどう関わってきたか、武道伝書を基に検証し、剣術が剣道へと発展昇華していく過程をわかりやすく解説。



刀剣の歴史と思想

筑波大学大学院准教授 酒井利信 著
(四六判・上製・346頁)

日本人が、刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か。日本刀剣思想の独自性を確かな史料を基に考察する。



人を育てる剣道

剣道範士八段 角正武 著
(四六判・上製・268頁)

剣道の真価は、気力を練り上げ、肚をつくる修行にある。人間の土台をつくる剣道を目指す著者渾身の剣道指導論。

◎ご注文・お問い合わせ

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2番3号

日本武道館 教育文化部出版広報課

TEL(03)3216-5147/FAX(03)3216-5158

<http://www.nipponbudokan.or.jp/>



決勝＝高橋（右）対大嶋

女子

高橋萌子（神奈川）が3度目の優勝



高橋選手に日本武道館賞が手渡された



高橋選手（中央）と神奈川県警関係者一同

決勝

高橋 梅 大嶋

本大会9回目の出場で過去2回の優勝経験を誇るベテランの高橋と初優勝を狙う大嶋との決勝。

序盤戦、1回戦から面が冴えわたる高橋が面を放つ。惜しくも一本とはならなかったが、館内から拍手が湧き起こった。両者激しい攻防をみせるが、一本が決まらず試合終盤へ。試合時間残り40秒、高橋が引き面で一本を先取。その後も高橋は攻め続け、大嶋に付け入る隙を与えず試合終了。決勝までに3度の延長戦と苦戦を強いられたものの、高橋が7年ぶり3回目の優勝を決めた。



準決勝①

高橋 メー 柿元



準決勝①＝高橋（左）が初太刀で面を決めた

試合開始5秒、初太刀で高橋が鮮やかに一本を先取。その後も高橋は守りに入らず果敢に攻め込む。試合途中に高橋が手を上げて待てがかかると、3度の延長戦（2、3、4回戦）による疲労の影響か左腕を気にする場面があった。しかし、柿元冴月（福岡）の反撃も及ばず、高橋が決勝へ進出した。

準決勝②

大嶋 メー 妹尾



準決勝②＝大嶋（右）が攻め込む

準決勝2試合目は、本大会4回目の出場で初優勝を狙う大嶋と第60回大会で優勝経験がある妹尾舞香（福岡）との一戦。試合終盤、大嶋が飛び込み面を放ち一本を決める。一本を取り返したい妹尾だが、大嶋が巧みに防いで勝負あり。優勝経験のある妹尾を下し、大嶋は初の決勝へ進出した。

●優勝者インタビュー 高橋萌子選手（神奈川／神奈川県警）



を出し切ろうと思っていました。試合が長くなったり、途中で試合を止めてしまったりして、泥くさくやっていたところがありますが、勝ち切ることができて良かったと思います。気持ちが張っていたので、カウターを出せたと思います。

◇

全体的に自分より年下の選手が多く、受けて立つ気持ちが良い方向に働けば良いですが、気おくれしたり攻め込まれて後手後手になると上手くいかないのが、自分の剣道を出し切って勝とうと思っていました。

◇

（モチベーションについて）下がることはなくて、勝ち続けることがどれだけ難しいことか感じます。背を向けたくなる時に、周りに刺激されて、苦しいなかでも戦えることができます。

もう一回自分の剣道を見つめ直して、自信に変えていきたいと思っています。

（決勝の試合を振り返って）相手の得意技は意識していましたが、自分が小さくならないように自分の剣道

◇

で、この舞台が遠くに感じました。出場できることに感謝しながら一試合一試合やってきました。最終的に結果がついてきてくれて、応援してくれた皆さんには感謝の気持ちを伝えたいです。何回目の優勝に関係なく、1回目の時と同じくらい優勝して嬉しいです。初戦も決勝も変わらずに自分の剣道を出し切りたいと思っていました。決勝を目の前にした時に、もう来ないかもしれないチャンスをもにしようと思いました。

●入賞選手コメント
準優勝Ⅱ大嶋友莉亜選手

(大阪／大阪府警)

「一戦一戦当たる相手を気にせず
に、集中していました。自分は、攻
める剣道しかやってきていないの
で、試合ではそれを出すだけと思っ
ていました。打たれたところは、今
後の課題として直していきます。」

(勝ち上がった要因について) 今ま
では打たれたくないという気持ちが
大きく、技が出なかったです。チャ
レンジャーの気持ちで臨んだことが
要因だと思います。強い先輩方が多
い大阪府警で稽古をしているので、
その成果を少しは出せたと思いま
す。

決勝まで上がったことにしっかり
と自信を持って、これからも頑張っ
ていきます」



準優勝＝大嶋選手

3位Ⅱ柿元冴月選手

(福岡／福岡県警)

「初太刀を狙っていましたが、足が
止まってしまいました。(同じ福岡
県代表の) 妹尾先輩と決勝で当たる
ことができず、悔しいです」



3位＝柿元選手

3位Ⅱ妹尾舞香選手

(福岡／福岡県警)

「チャレンジャー精神で行こうと
思っていました。慎重になり過ぎ
ました。大嶋選手は、高校、大学が
一緒で、お互い手の内は知っている
ので、先輩として勝たなかったです」



3位＝妹尾選手

15

日本武道館の単行本



剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480頁・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いなが
ら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて
見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道とい
う日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516頁・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るま
での剣道の歴史的發展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の
有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を
考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年
のときを経てついに単行本化。



柔道 その歴史と技法 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・330頁・定価2,640円

柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、
柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権や
オリンピックをはじめとした各種競技大会にみられる技法を分析し、
今後の課題を探る。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手刈徹 著
四六判・上製・568頁・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATE
となった。その歴史と技法を、那覇柔術流の小山正辰氏、首里系
松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手刈徹氏
の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手刈氏が発見した剛柔流の開祖・
宮城長順の最新の事実、小山・和田の高世界チャンピオンのエビソ
ードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・並製・248頁・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブ
ックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりと
り、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料
をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界
で日本各地をめぐってみては。



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。
その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優
勝を果たした。本書では激動の自信を記し、弓のあり方や「早気」など
弓道家の誰もが陥る課題などを構築する。死の淵を覗き、現在も全身
全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354頁・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人
間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋
戦争後は武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として
復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道
の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ

(財財) 日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



好評発売中!

剣道の歴史・技法を戦国期から現代まで時代を追ってわかりやすく解説。

剣道 その歴史と技法

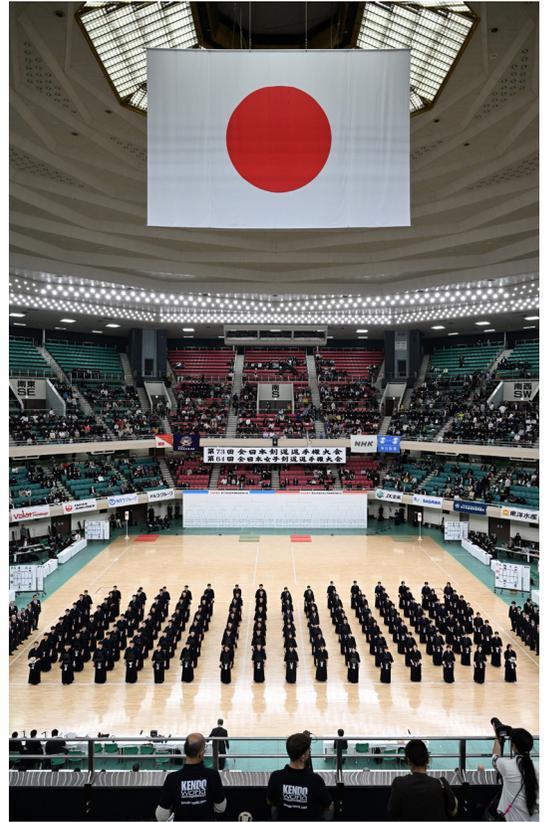
埼玉大学名誉教授 おほほまきてるお 大保木輝雄 著



四六判・上製・516頁・定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



【大会結果 (男子)】

優 勝 Ⅱ 星子 啓太 (東京)
 準優勝 Ⅱ 國友 錬太郎 (福岡)
 3 位 Ⅱ 村上 哲彦 (愛媛)
 林田 匡平 (長崎)
 優秀選手 Ⅱ 黒川 雄大 (神奈川)
 伊藤 勇太 (埼玉)
 松崎 賢士郎 (茨城)
 佐々木 陽一朗 (千葉)
 竹ノ内 佑也 (東京)
 西村 英久 (熊本)

【大会結果 (女子)】

優 勝 Ⅱ 高橋 萌子 (神奈川)
 準優勝 Ⅱ 大嶋 友莉亜 (大阪)
 3 位 Ⅱ 柿元 冴月 (福岡)
 妹尾 舞香 (福岡)
 優秀選手 Ⅱ 関川 絢心 (北海道)
 橋本 陽菜 (山口)
 竹中 美帆 (茨城)
 小川 梨々香 (埼玉)
 佐藤 みのり (東京)
 岩原 千佳 (徳島)

第30回全日本女子相撲選手権大会

長谷川理央が2階級を制覇



無差別級・決勝＝長谷川（奥）が寄り倒して勝利し、2階級を制した

第30回全日本女子相撲選手権大会（主催Ⅱ日本相撲連盟、日本女子相撲連盟）が10月12日、京都府京都市の京都市武道センターで開催された。

本大会では長谷川理央（東京・慶應義塾大）が、73kg未満級と無差別級の2階級で優勝を果たした。また、60kg未満級の中口藍彩（石川・金沢学院大学附属高）、80kg未満級の鈴木志歩（東京・慶應義塾大）、80kg以上級の後藤なぎさ（鳥取・鳥取城北高）がそれぞれ初優勝に輝いた。

■55kg未満級

篠原 茜 ○押し出し 松浦みな美
 決勝は、篠原茜（東京・早稲田大）と松浦みな美（静岡・やいづ少年相撲クラブ）の顔合わせ。試合は篠原が力強い押し出しで松浦を下して、勝利を収めた。

◎優勝Ⅱ篠原茜選手

「今シーズンは両肩の手術もあり、大会でなかなか良い結果を出せていませんでしたが、優勝できて良かったです。早稲田大学相撲部の女子部員は私一人ですが、大会に来るとい

ろいろな人が応援してください、女子相撲の仲間に支えられていることを実感でき、とても力をもらえました」

■60kg未満級

中口藍彩 ○下手投げ 原田美涼

中口藍彩と原田美涼（京都・立命

館大）の初優勝をかけた一戦は、中口が右手でしっかりと下手を取り、そのまま下手投げで原田を破り試合終了、初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ中口藍彩選手

「早く家族に報告したいです。原田選手はずっとライバルで岐阜の大会では負けていたので、勝ててよかつ

たです。廻しを取られないように動きました」

■65kg未満級

奥富夕夏 ○引き落とし 古瀬愛恵

決勝は、奥富夕夏（東京・日本通運）と古瀬愛恵（鳥取・鹿野学園）の一戦。試合は立ち合いからしばら

く土俵中央で膠着状態が続いたが、奥富が引き落としを決めて勝利した。

◎優勝Ⅱ奥富夕夏選手

「昨年からの会社に所属しています。昨年は1回戦で敗退してしまつたので、今回はいい成績を残して会社に貢献したいと思っていたので、



55kg未満級・決勝＝篠原（左）が押し出して勝利を収めた



60kg未満級・決勝＝中口（左）の下手投げ



65kg未満級・決勝＝奥富（左）と古瀬の一戦

優勝できて嬉しいです。自分の持ち味である粘り強い相撲を取れたのがよかったです」

■73kg未満級

長谷川理央 ○寄り切り 矢口愛利菜

9月の世界相撲選手権大会でシニア女子中量級準優勝の長谷川理央と矢口愛利菜(京都・龍谷大)の顔合わせ。試合は盤石の強さで長谷川が矢口を寄り切りで退け優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ長谷川理央選手

「9月の世界選手権で優勝を逃していたので、絶対に優勝するつもりだったのでよかったです。落ちて着いて自分のやってきたことを出せたと思います。新しく入部してくれた女子の後輩が頑張っている姿を見て刺激をもらっています」



73kg未満級・決勝=長谷川(奥)が寄り切りで勝利



80kg未満級・決勝=鈴木(左)の肩透かし

■80kg未満級

鈴木志歩 ○肩透かし 川崎羽華那

決勝は、鈴木志歩と川崎羽華那(鳥取・公立鳥取環境大)の対戦。試合は鈴木が鮮やかな肩透かしを決めて勝利。初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ鈴木志歩選手

「今年の試合で一回も入賞できていなかったのですが、優勝できてよかったです。とにかく優勝するぞという気持ちで臨みました。体の動きがよかったですと思います。今後は世界大会でも活躍していきたいです」

■80kg以上級

後藤なぎさ ○突き落とし 久野愛莉

9月の世界相撲選手権大会のシニア女子重量級で銅メダルを獲得した後藤なぎさと、同世界大会シニア女子無差別級で3位入賞を果たした久野愛莉(東京・立飛女子相撲部)の一戦。立ち合いから久野が後藤を土俵際まで追い込むと、後藤が体を捻り、久野の体制を崩し突き落としとして勝利。初の栄冠に輝いた。



80kg以上級・決勝＝後藤（奥）が突き落として勝利

◎優勝Ⅱ後藤なぎさ選手

「高校生活最後の大会を優勝できてとても嬉しいです。対戦経験のある強い選手が多い中で、しっかりと勝ち上がることができました」

■無差別級

長谷川理央 ○寄り倒し 奥富夕夏

各階級の優勝者と準優勝者で行われる無差別級の決勝は、73 kg未満級優勝の長谷川と、ここまで80 kg以上級の後藤と久野を下し決勝に進出した65 kg未満級王者の奥富の顔合わせ。試合は長谷川が寄り倒して勝利。2階級で頂点に立った。

◎優勝Ⅱ長谷川理央選手

「2階級を制覇することが今までになかったので嬉しいです。世界大会で優勝できなかった悔しさがあり、今大会は絶対に2冠を取りたいと思っています」

■団体戦

鳥取県A 3-0 東京都B

後藤なぎさ ○押し出し 奥富夕夏

石川昊愛 ○下手投げ 鈴木志歩

川崎羽華那 ○押し倒し 久野愛莉

鳥取県Aと東京都Bの決勝は、次

鋒戦で鳥取県A・石川昊愛（鳥取城北高）が80 kg未満級王者の鈴木を下し手投げで下した。その後、川崎も久野に押し倒しで勝ち、3-0で鳥取県Aが団体戦を制した。

【大会優勝者・団体】

▽55 kg未満級Ⅱ篠原茜（東京・早稲田大）

▽60 kg未満級Ⅱ中口藍彩（石川・金沢学院大学附属高）

▽65 kg未満級Ⅱ奥富夕夏（東京・日本通運）

▽73 kg未満級Ⅱ長谷川理央（東京・慶應義塾大）

▽80 kg未満級Ⅱ鈴木志歩（東京・慶應義塾大）

▽80 kg以上級Ⅱ後藤なぎさ（鳥取・鳥取城北高）

▽無差別級Ⅱ長谷川理央

▽団体戦Ⅱ鳥取県A

